



富貴寺の本堂

南北朝末期の寄棟造の建物。近年まで荒廃していましたが、昭和39年(1964)からの解体修理で面目を一新しています。本尊である木造釈迦如来坐像の背面来迎壁には壁画が描かれています。

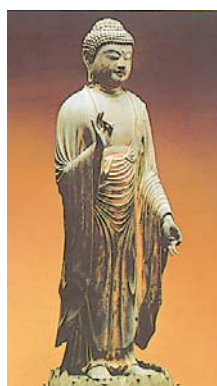
富貴寺の木造地蔵菩薩立像

本尊の木造釈迦如来坐像の向って右側に位置する彫眼の像。蓮花座及び輪光は後から加えられたものです。本尊釈迦如来坐像と同様の和様彫刻で、同じところに造られたものです。



富貴寺の 釈迦如来坐像

富貴寺の本尊としてまつられている彫眼、漆箔の坐像。平安時代後期でも最末期の和様彫刻の様式が取り入れられています。



光林寺の木造 阿弥陀如来立像

上品下生印相を結ぶ玉眼、漆箔の像です。戦後の調査で、足の柄(ほぞ)に「承久三年法眼快慶」の墨書銘がみつかり、鎌倉時代の巧匠、快慶の最晩年の作ということが判明しました。



旧白米寺の 木造地蔵菩薩立像

かつては樟材に彩色を施していましたが、現在はほとんどが剥落しています。宝珠・錫杖・光背・台座・白毫は後から付けられたもの。平安時代中期の作風がうかがえます。



旧白米寺の 木造阿弥陀如来坐像

八幡神社境内の北東にあった阿弥陀堂に安置されていた白米寺伝来の像。制作年代としては平安後期の様式と考えられます。



糸井神社の結崎おかげ踊り絵馬

伊勢神宮に群参した「おかげ参り」に発するもので、おかげ参りから派生し幕末に流行した「ええじゃないか」の様子が描かれているともいわれています。慶応4年(1868)の作。

比売久波神社本殿

春日大社摂社若宮神社本殿を移建したもの。一間社切妻造りの妻入りの身舎で、特徴的な春日造の社殿です。江戸時代初めごろに建てられたものと見られ、現存する春日大社古社殿の中でも、最も古いものと考えられます。

旧白米寺の木造不動明王立像

二尺足らずの小像ですが、堂々たる量感を感じさせる彫技があり、鎌倉時代の早い時期の制作と見られる秀作。



糸井神社の結崎の太鼓踊り絵馬

かつて存在していた神宮寺の僧と思われる人物が燈籠に火をつけたり、スイカを振る舞っている様子が描かれており、特に後者は大和平野におけるスイカ栽培の歴史を知るうえで貴重な資料です。太鼓の音は雷を表すことから雨乞いが行われている図柄であることが分かります。天保13年(1842)の作。役場玄関にレプリカを展示しています。

光林寺の本堂及び表門

一時は浄土真宗仏光寺派の中本山格として隆盛した寺で、本堂の鬼瓦の銘からともに江戸時代前期の建造物であることが明らかになりました。